

2024（令和 6）年度
第 2 期知床半島ヒグマ管理計画目標に関する状況（確定版）

○第 2 期知床半島ヒグマ管理計画の目標の達成状況

本計画の目標	目標値	第 2 期計画 実績値						達成状況	関連する主な方策
		2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)		
①計画期間内における、斜里町、羅臼町及び標津町内でのメスヒグマの人為的な死亡総数の上限目安を 108 頭以下とする。 （注 4、5）	18 頭以下 （単年目安）	16 頭	116 頭	9 頭				未達成（確定）	No. 1 誘引物の除去、No. 3 侵入防止用電気柵の設置・管理、No. 4 住宅地周辺の草刈り、No5 出沒状況の把握、No. 7 非致命的追い払い、No. 8 捕獲
	108 頭以下（累計）		計 132 頭	計 141 頭					
②計画期間内における、ヒグマによる人身事故（利用者等）をゼロとする。（注 6）	0 件	0 件	1 件 （注 6）	1 件 （注 6）				未達成（確定）	No. 1 誘引物の除去、No. 3 侵入防止用電気柵の整備、No. 4 住宅地周辺の草刈り、No. 8 捕獲、No. 24 情報提供・注意喚起、No. 25 利用自粛要請、No. 26 施設閉鎖、No27. 緊急時の避難誘導
	（累計）		計 1 件	計 2 件					
③利用者の問題行動に起因する危険事例の発生件数を現状（第 1 期計画期間の年平均値。以下同じ。）以下に抑制する。（注 7）	19 件以下 （単年目安）	29 件	37 件	73 件				未達成（確定）	No. 17 普及啓発、No. 19 利用者側の問題行動に対する指導、No. 20 アクセスコントロール
	114 件以下（累計）		計 66 件	計 139 件					
④地域住民や事業者の問題行動に起因する危険事例の発生件数を現状以下に抑制する。	11 件以下 （単年目安）	6 件	12 件	1 件					No. 11 ゴミや食料の管理に関する指導、No. 3 侵入防止用電気柵の普及・設置促進、No. 38 町広報誌・メール等による注意喚起
	66 件以下（累計）		計 18 件	計 19 件					
⑤市街地（ゾーン 4）への出沒件数を現状以下に抑制する。	95 件以下 （単年目安）	76 件	399 件	76 件					No. 1 誘引物の除去、No. 3 侵入防止用電気柵の設置・管理、No. 4 住宅地周辺の草刈り、No. 7 非致命的追い払い、No. 8 捕獲
	570 件以下（累計）		計 475 件	計 551 件					
⑥斜里町における農業被害面積を現状から 5 % 削減する。 （注 8、9）	536a 以下 （6 年平均）	510a	752a	203a					No. 34 農地への電気柵普及・設置促進、No. 29 地元猟友会・地域住民との情報交換、No. 8 捕獲
⑦漁業活動に関係する危険事例の発生件数を現状以下に抑制する。	2～3 件以下 （単年目安）	0 件	7 件	0 件					No. 34 番屋への電気柵普及・設置促進、No. 7 非致命的追い払い、No. 8 捕獲
	16 件以下（累計）		計 7 件	計 7 件					
⑧ヒグマによる人身事故を引き起こさないための知識、ヒグマに負の影響を与えずにふるまうための知識を地域住民や利用者に現状以上に浸透させる。	—	—	—	—					No35・36 地域住民や利用者への普及啓発

（注 4）当該地域におけるヒグマの個体数に係る新たな知見が示されるなど状況に変化があった際には、その結果を踏まえ科学的な見地から人為的な死亡総数の目安について再考する。
（注 5）本計画で定めたメスヒグマの人為的な死亡総数の目安は、北海道ヒグマ管理計画において定められている、道東・宗谷地域東部（阿寒白糠以東）の「計画期間総メス捕獲上限数」に含まれる。
（注 6）危険な場面に立ち会うことの多い捕獲従事者は、地域住民や利用者とは性質が異なるため、ヒグマ捕獲従事者の人身事故は別途集計を行う。なお、2023 年の 1 件は目標の人身事故発生件数に含めるが、シカ捕獲作業中のハンターが襲われた事例である。
（注 7）「9. 管理の方策」において問題行動と位置付ける行為。
（注 8）本目標は、斜里町鳥獣被害防止計画の目標（令和 5 年度に令和 2 年度比 5%削減）を参照したもの。
（注 9）標津町や羅臼町においてもデントコーンや牧草ロール等に農業被害が発生しているが、被害の発生頻度や被害額は斜里町と比較して少なく、被害として計上する状況には至っておらず、鳥獣被害防止計画においても農業被害に関する目標を明確に設定していない。したがって、目標には掲げずに被害状況を注視することとする。

知床半島ヒグマ管理計画目標である①～⑧のうち、数値目標が設定されていない⑧以外について、2024（令和 6）年度の状況を以下に記した。

目標① 計画期間内における、斜里町、羅臼町および標津町でのメスヒグマの人為的な死亡総数の上限目安を 108 頭以下とする。

- ・ 2024 年度のヒグマ人為的死亡個体の内訳は、メスが 9 頭（斜里町 5 頭、羅臼町 2 頭、標津町 2 頭）、オスが 21 頭（斜里町 13 頭、羅臼町 2 頭、標津町 6 頭）であった（表 1）。
- ・ 第 2 期計画が開始した 2022 年からのメスヒグマの人為的死亡数（累計）は 141 頭となった。
- ・ 2024 年度におけるメスヒグマの死亡地点を図 1 に示した。
- ・ 1975 年から 2024 年におけるヒグマの人為的死亡数を図 2 に示した。

表 1. ヒグマ人為的死亡個体の内訳（年齢別・町別・性別）

年齢/町・性別	メス			オス		
	斜里町	羅臼町	標津町	斜里町	羅臼町	標津町
0歳	0	0	0	1	0	0
1歳	1	1	1	1	1	0
2歳	1	0	0	1	0	1
3歳以上	3	1	1	10	1	5
小計	5	2	2	13	2	6
合計	9			21		

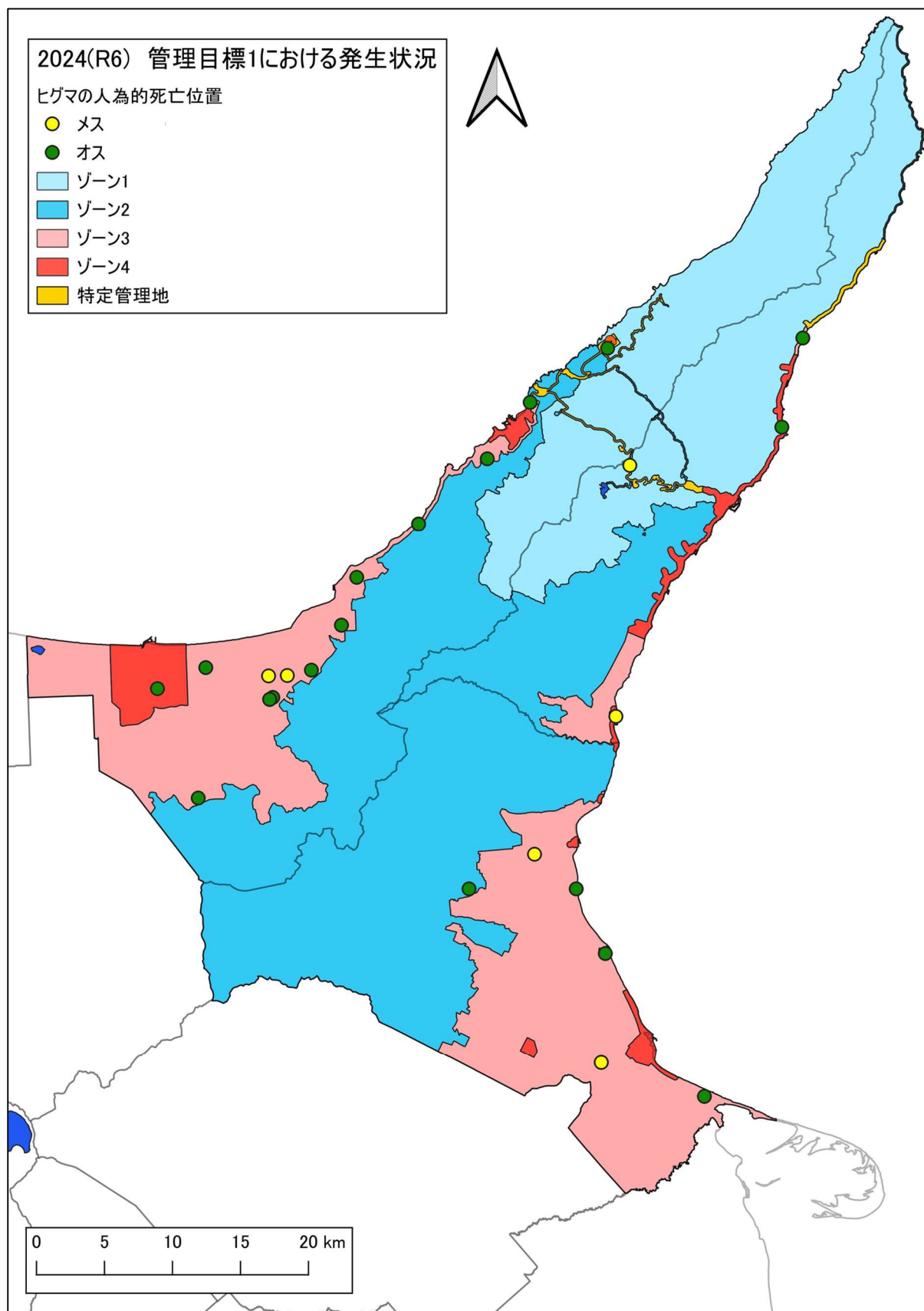


図 1. ヒグマの人為的死亡位置

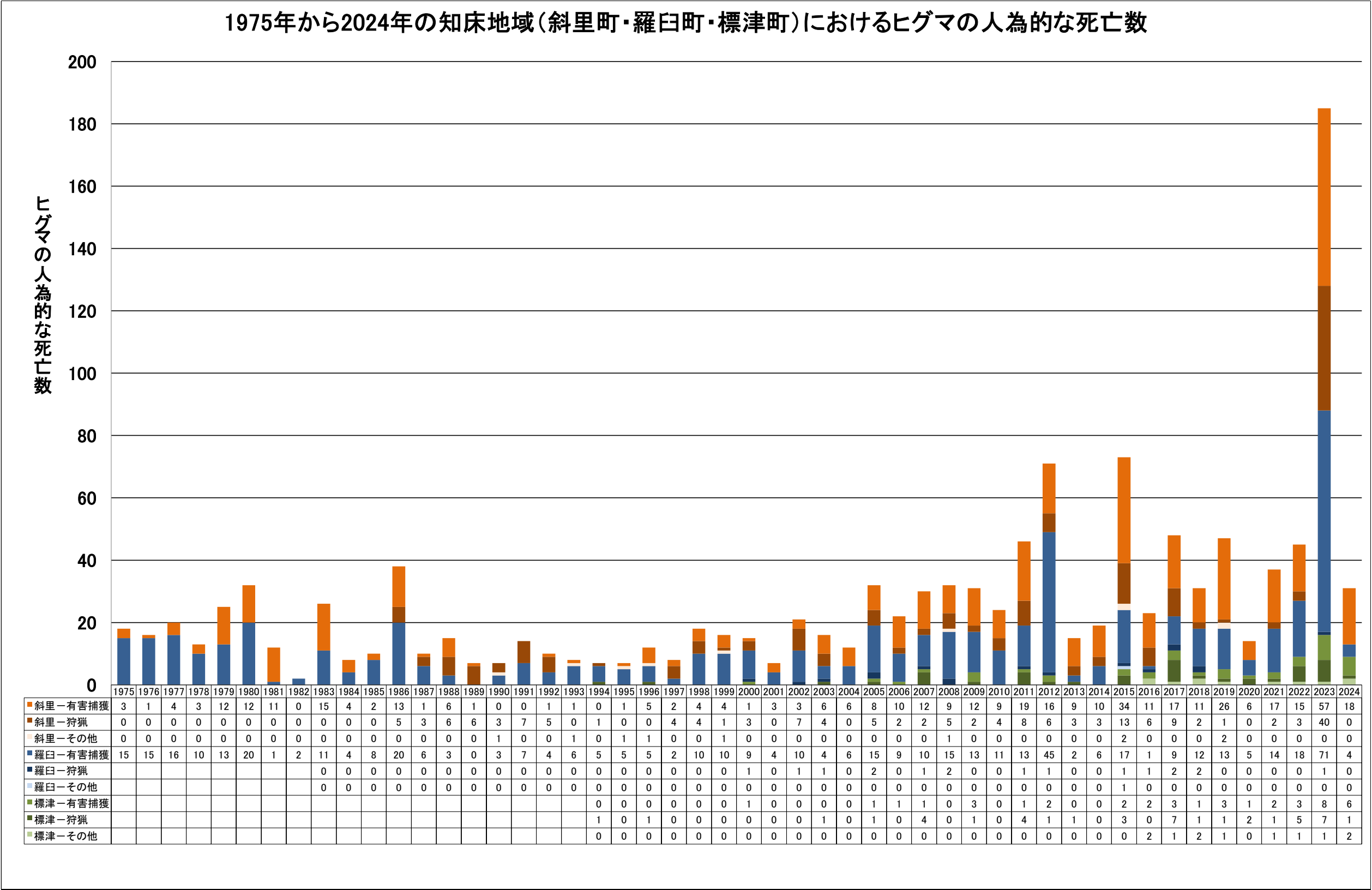


図 2. 昭和 50(1975)年から令和 6(2024)年の知床地域におけるヒグマの人為的な死亡数

- ・昭和 50~59(1975~1984)の羅臼町の数字については知床の哺乳類に掲載の図から読み取って記入。
- ・昭和 61(1986)年以前の狩猟による捕獲数はデータなし。
- ・標津町については平成 29(2017)年から記載。その他の空白セルはデータなし。
- ・1~12 月に捕獲された個体をその年の捕獲として集計。
- ・「その他」の分類には、人材育成捕獲や事故死等を含む（自然死亡は含まない）。

目標② 計画期間内における、ヒグマによる人身事故（利用者等）をゼロとする。

- ・2024 年度はヒグマによる人身事故が斜里町で 1 件発生した（図 3）。
 - ・7 月 30 日に斜里町基部（ゾーン 4）の防風林に侵入したヒグマを有害駆除するために巻き狩りをしていたところ、猟友会員 1 名がヒグマに襲われて負傷した。当該加害個体はその場で別の猟友会員が発砲し捕殺された（オス成獣ヒグマ 体重 267 kg、前掌幅 約 18 cm）。なお、巻き狩りを実施する前に確認された前掌幅は約 15cm であったため、当該エリアには少なくとも 2 個体が侵入していたことが判明している。もう 1 頭（前掌幅 15 cm）の個体については足取りが追えず、その後の行方は不明である。
- 当該加害個体は DNA 解析により個体 ID「20SS05」と判明した。この個体は、幌別やオペケプ林道等にも出没していたことが過去の DNA 調査により判明している。
- 人身事故の詳細については別紙 1（p. 23）に掲載した。
- ・第 1 期計画期間を含めると、ヒグマによる人身事故は計 4 件発生している（表 2）。

表 2. 2017 年度から 2024 年度（10 月 31 日まで）におけるヒグマによる人身事故の発生件数

	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
斜里町	1※1	0	1※1	0	0	0	0	1※1
羅臼町	0	0	0	0	0	0	1※2	0
標津町	0	0	0	0	0	0	0	0
計	1	0	1	0	0	0	1	1

※1. ヒグマ捕獲従事者がヒグマに襲われた事例

※2. エゾシカ捕獲従事者がヒグマに襲われた事例



図3. ヒグマによる人身事故の発生位置

目標③ 利用者の問題行動に起因する危険事例の発生件数を現状以下(累計 114 件)に抑制する。

- ・ 2024 年度は利用者の問題行動に起因する危険事例が計 73 件（すべて斜里町）発生した（表 3、図 4）。羅臼町、標津町では発生しなかった。
- ・ 危険事例が増加した理由としては、9 月から 11 月にかけて複数頭のヒグマが岩尾別川に頻繁に出没し、観察・撮影するために接近する利用者が後を絶たなかったことがあげられる（写真 1、図 5）。
- ・ 過去の発生状況については表 4 に示した。

表 3. 2024 年度に発生した利用者の問題行動に起因する危険事例の詳細（一部抜粋）

No.	日付・町	状況概要
1	4 月 29 日 斜里町	幌別地区の道道においてヒグマを近距離（約 10m）で撮影する利用者 5 名が確認されたため、注意喚起を行った。
2	5 月 4 日 斜里町	岩尾別温泉道路にヒグマが出没。多数の利用者が観察・撮影のために降車し、交通障害が発生。ヒグマとの距離は約 20m であった。
3	5 月 5 日 斜里町	岩尾別温泉道路付近において単独メス成獣サイズのヒグマが出没。利用者 6 名が約 20m の距離で降車し、撮影。対策員が注意喚起を行ったが、素直に聞き入れず、車内に戻らなかった。その後、ヒグマの姿が見えなくなったため、利用者は現場を立ち去った。
4	5 月 17 日 斜里町	岩尾別地区の道道において 0 歳子連れ親子グマが出没。降車して観察する利用者 2 名が確認された。
5	6 月 25 日 斜里町	幌別地区の国道沿いに単独メス成獣サイズのヒグマが出没。ヒグマとの距離 10m で降車していた。
6	7 月 14 日 斜里町	岩尾別地区の道道に 0 歳 1 頭連れ親子グマが出没。撮影・観察のために対数の利用者が降車して、約 8m まで接近していたため、車内に戻るように注意喚起を行った。
7	9 月 10 日 斜里町	岩尾別川に 0 歳 1 頭連れ親子グマが出没。車両 7 台が停車、利用者 9 名が降車して約 20m の位置から観察・撮影していた。車内へ戻るよう注意喚起を行ったが、素直に聞き入れられず、注意を何度も繰り返した。
8	10 月 10 日 斜里町	岩尾別川に 0 歳 1 頭連れ親子グマが出没。20 台以上の車両が停車し、交通障害が発生。また、ヒグマ出没時における降車、近距離接近、つきまといが発生した。注意喚起を行ったが解消せず、環境省とウトロ駐在へ応援要請。協力して注意喚起を行った。
9	10 月 14 日 斜里町	岩尾別川に 0 歳 1 頭連れ親子グマが出没。多数の利用者が集まり、距離 25m の位置で撮影していたため、距離を取るよう注意喚起を実施したが、1 名の利用者が注意を聞かず、ヒグマの移動方向へ
10	10 月 24 日 斜里町	岩尾別川に単独メス成獣サイズのヒグマが出没。停車 13 台、降車 20 名の大渋滞が発生した。ヒグマとの距離は約 3m であり、非常に危険であるため、注意喚起を行った。

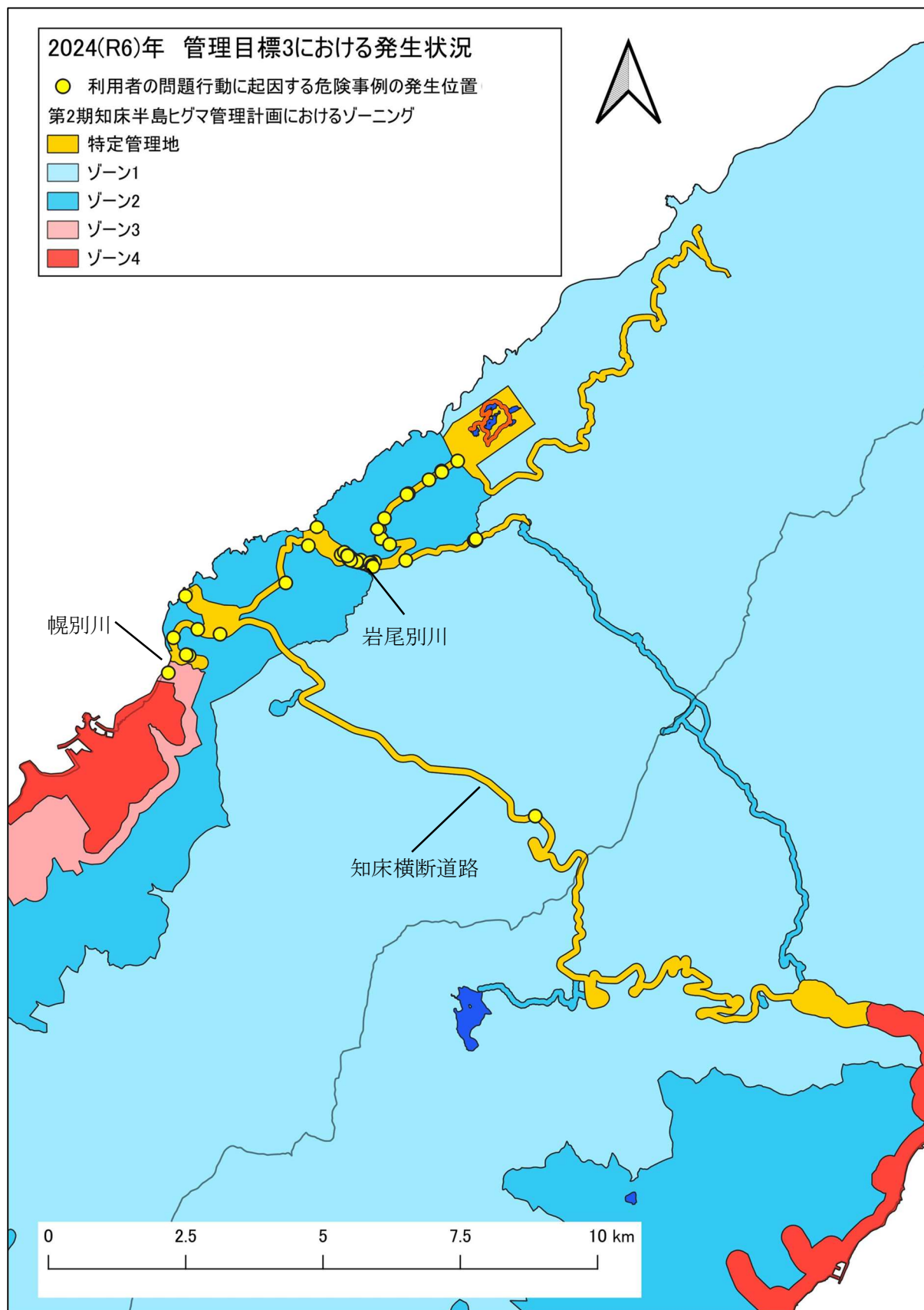


図 4. 利用者の問題行動に起因する危険事例の発生位置



写真 1. 出没したヒグマ（赤丸）に近づく多数の利用者（距離約 25m）

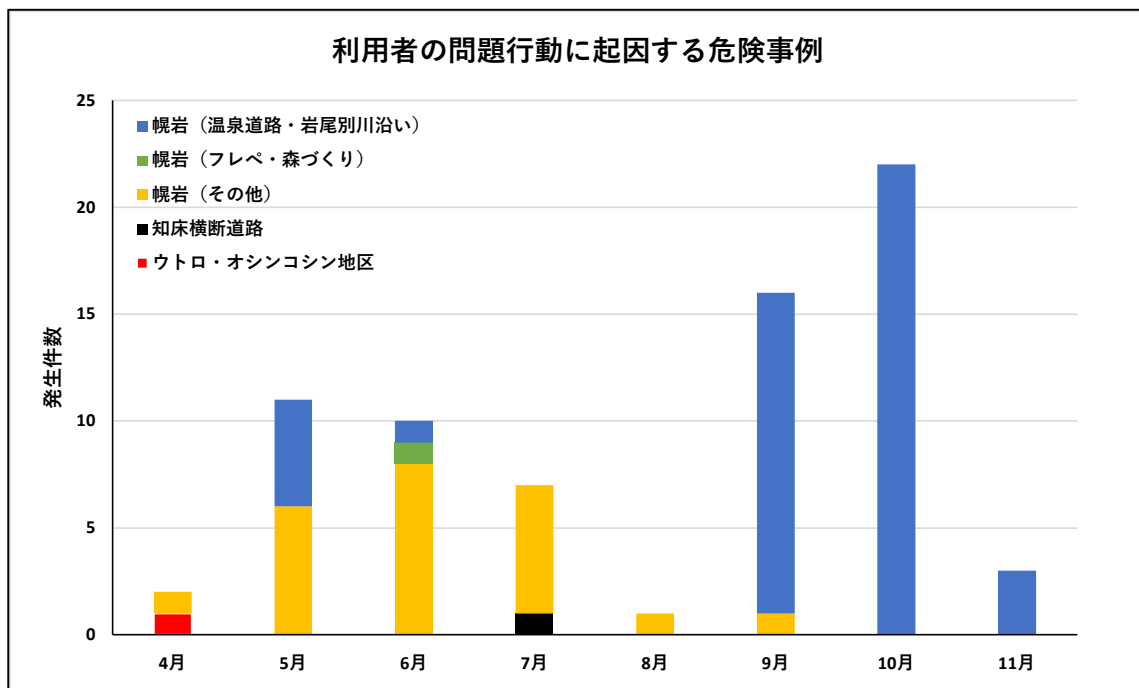


図 5. 利用者の問題行動に起因する危険事例の月別・地区ごとの発生件数

表 4. 2017 年度から 2024 年度における利用者の問題行動に起因する危険事例の発生件数

	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
斜里町	4	8	17	14	49	27	36	73
羅臼町	0	2	0	2	0	2	1	0
標津町	0	0	0	0	0	0	0	0

計	4	10	17	16	49	29	37	73
---	---	----	----	----	----	----	----	----

目標④ 地域住民や事業者の問題行動に起因する危険事例の発生件数を現状以下（累計 66 件）に抑制する。

- ・ 2024 年度は地域住民や事業者の問題行動に起因する危険事例が斜里町で 1 件発生した（図 6）。羅臼町および標津町では発生しなかった。
- ・ 斜里町で発生した 1 件は、ヒグマ活動期である知床五湖園地地上遊歩道において、遊歩道脇でシカの死体を採食するヒグマの存在にガイド事業者が気づいたものの、ツアー継続の判断を下し、ヒグマとの連続遭遇が発生したものである。
- ・ 過去の発生状況について表 5 に示した。

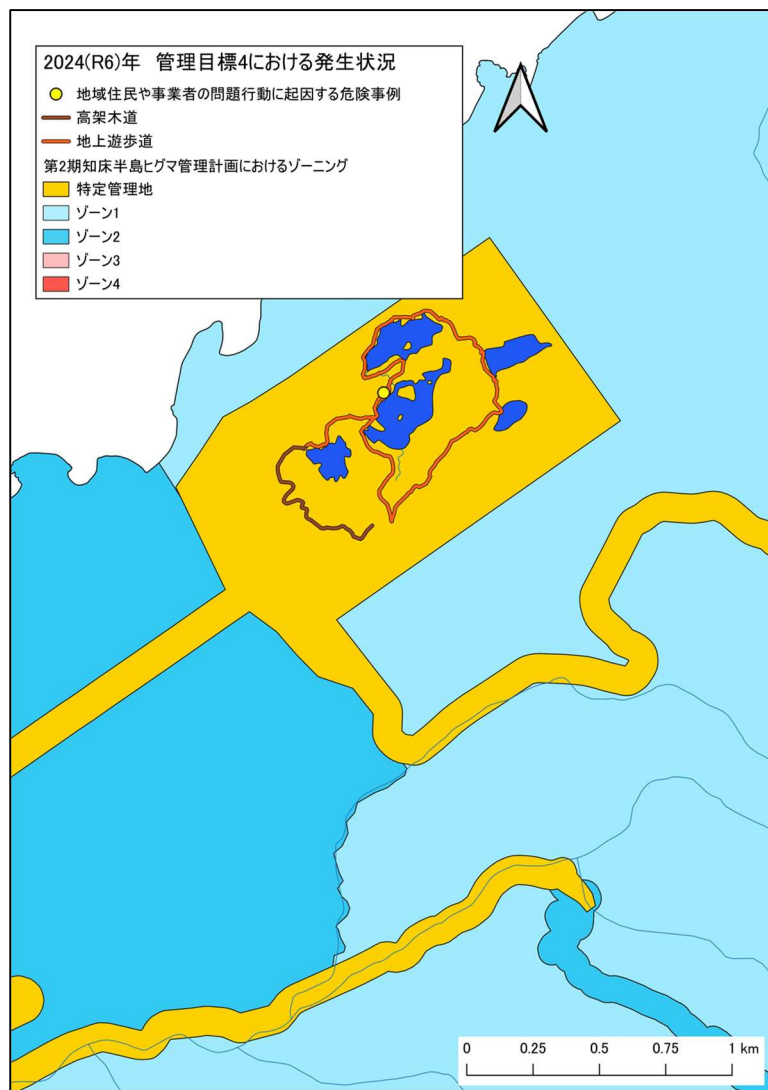


図 6. 地域住民や事業者の問題行動に起因する危険事例の発生位置

表 5. 地域住民・事業者の問題行動に起因する危険事例の発生件数（2017-2024 年度）

	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
斜里町	3	3	0	3	1	6	0	1
羅臼町	7	9	9	2	19	0	12	0

標津町	0	1	0	0	0	0	0	0
計	10	13	9	5	20	6	12	1

目標⑤ 市街地（ゾーン 4）への出没件数を現状以下（累計 570 件）に抑制する。

- ・ 2024 年度の市街地（ゾーン 4）へのヒグマの出没件数は 76 件（斜里町 26 件、羅臼町 46 件、標津町 4 件）であった。出没地点については図 7 から図 11 に示す。
- ・ 2017 年度以降の市街地（ゾーン 4）におけるヒグマ出没件数の推移を図 12 に示した。

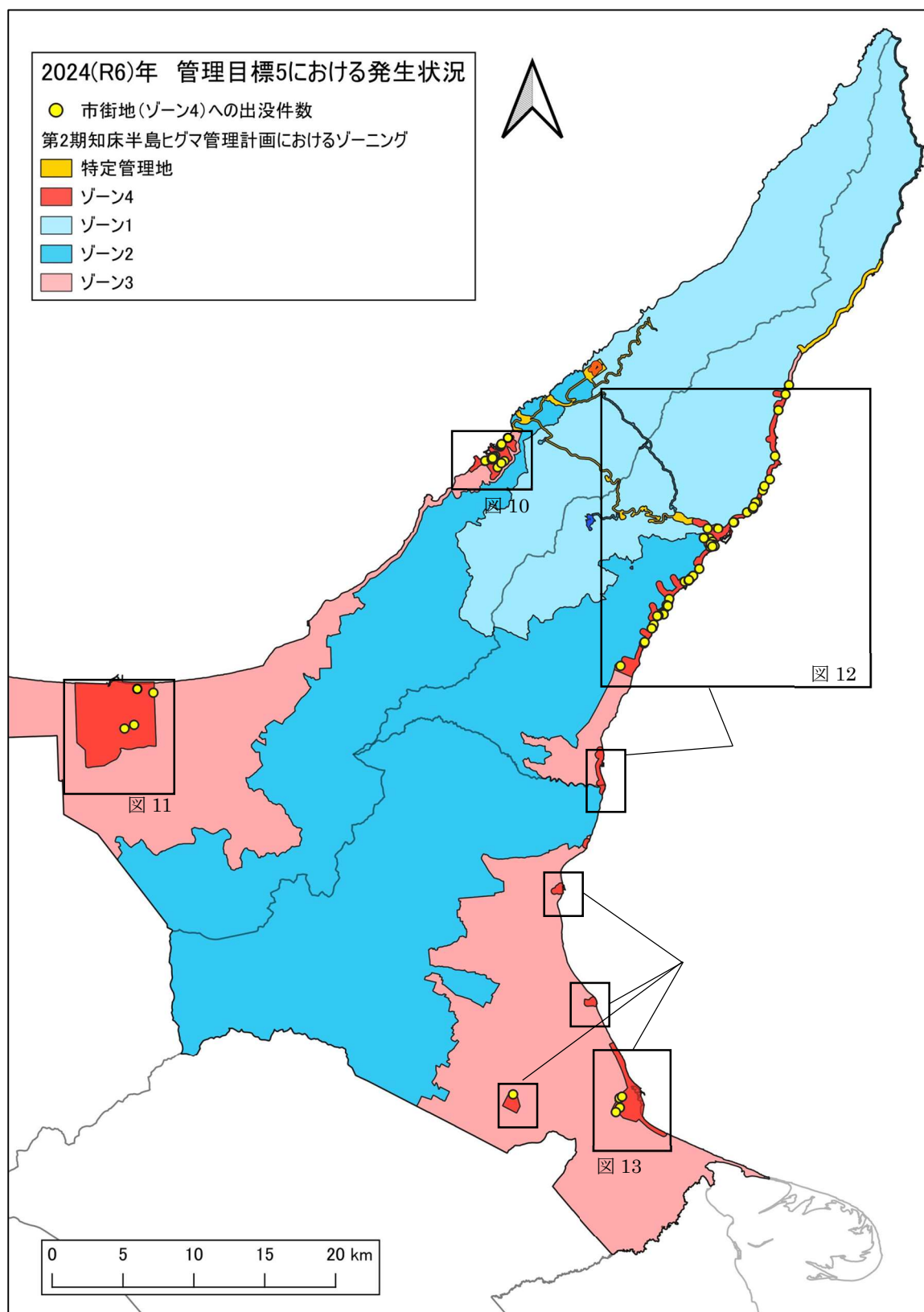


図7. 市街地（ゾーン4）のヒグマ出没位置



図 8. 市街地（ゾーン 4）への出没位置（ウトロ市街地拡大図）



図 9. 市街地（ゾーン 4）への出没位置（斜里市街地拡大図）



図 10. 市街地（ゾーン 4）への出没位置（羅臼市街地拡大図）

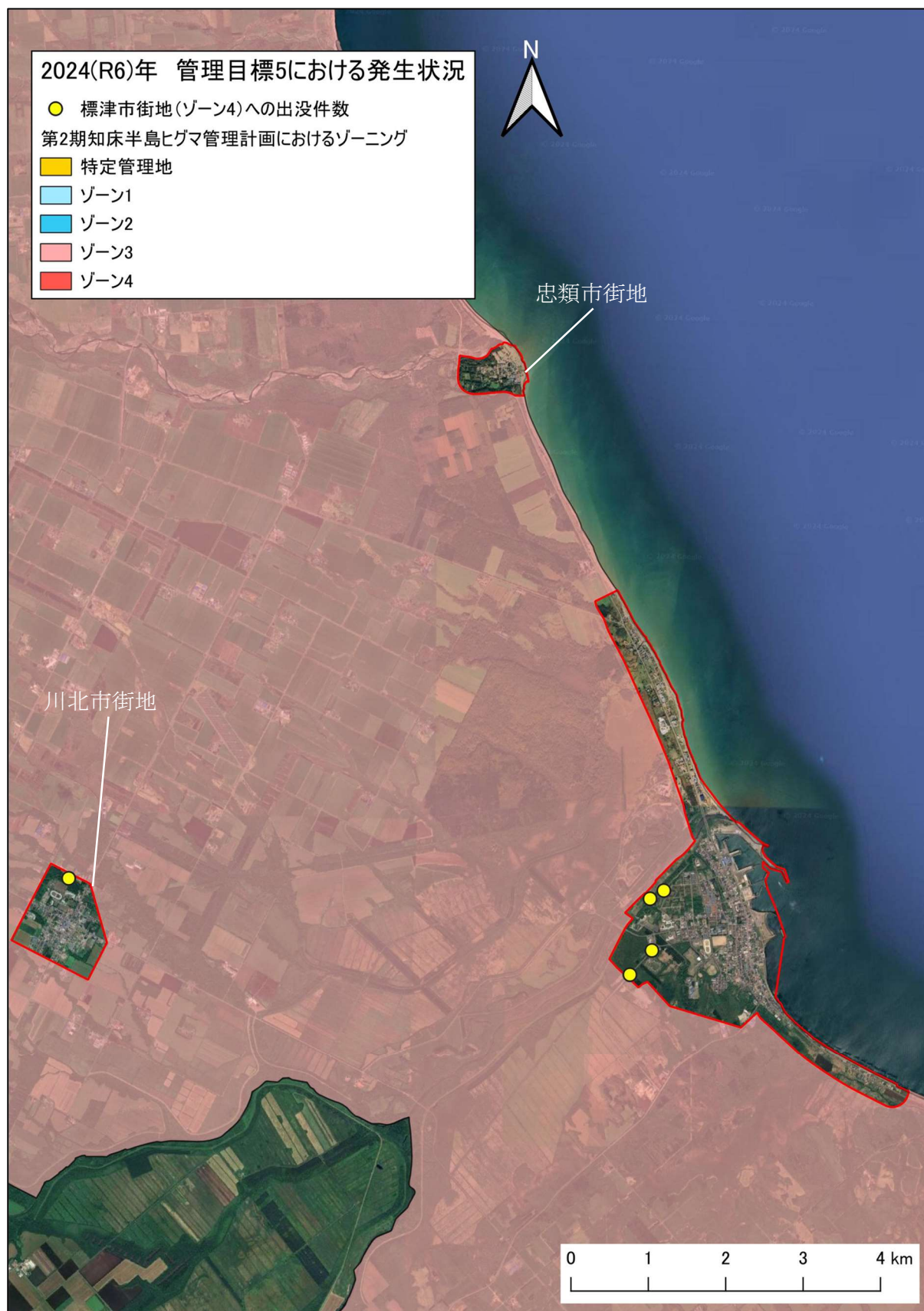


図 11. 市街地（ゾーン 4）への出没位置（標津市街地拡大図）

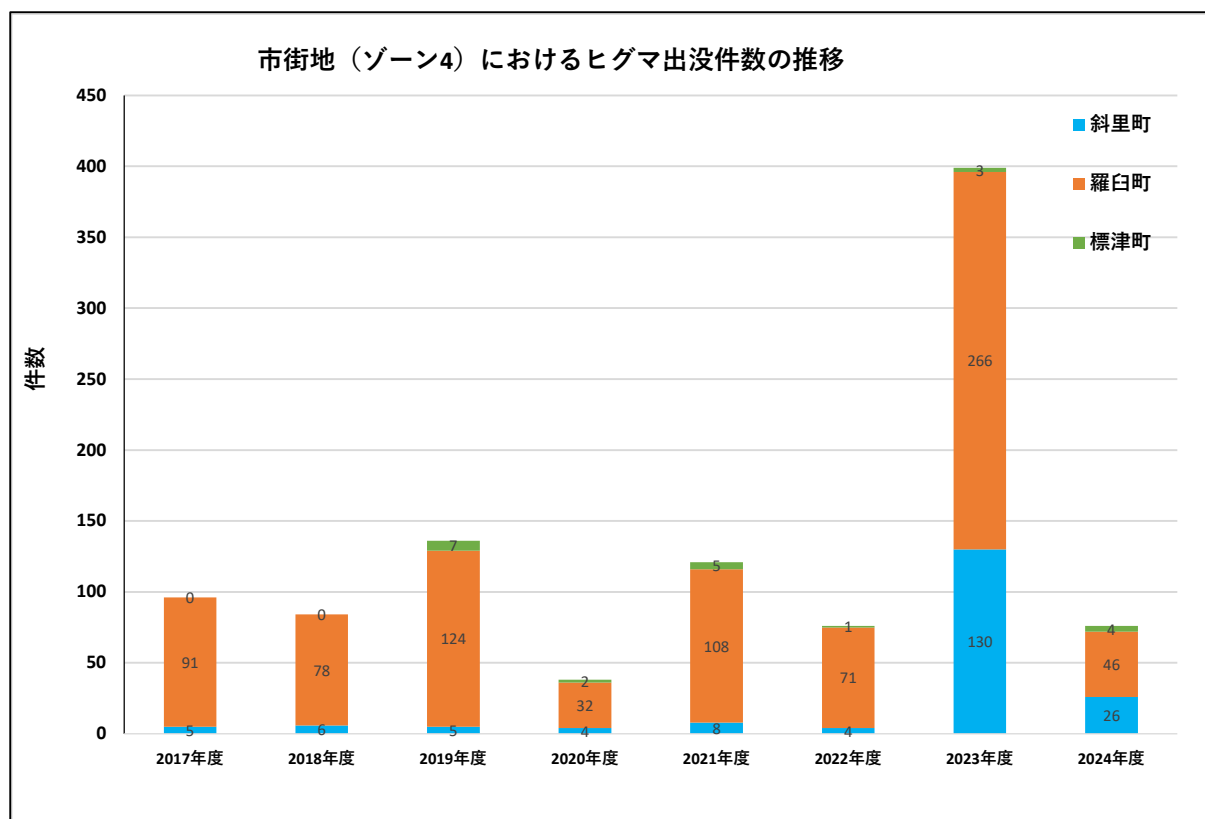


図 12. 市街地（ゾーン 4）におけるヒグマ出没件数の推移（2017-2024 年度）

目標⑥ 斜里町における被害面積を現状（536a（5年平均））から 5%削減する。

・2024 年度における斜里町のヒグマ農業被害面積は 203a であり、過去最小の被害面積であった。

・これまでの状況として、斜里町におけるヒグマ農業被害面積は年によってばらつきがあるものの、2017 年度から 2022 年度においては 2017 年度の 852a が最大となっており、以降は約 350～750a 前後で推移している（図 13）。

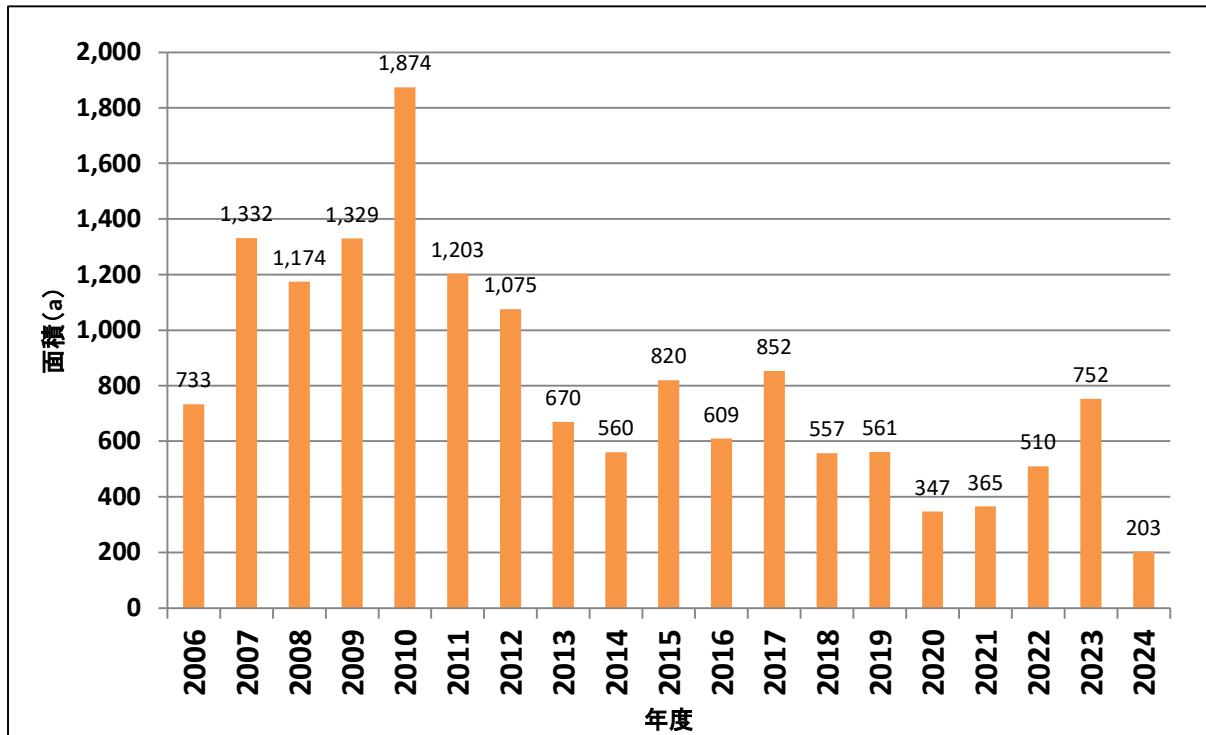


図 13. 斜里町におけるヒグマの農業被害面積の年次推移（2006-2024 年度）

目標⑦ 漁業活動（特に羅臼側の昆布番屋等）に関する危険事例の発生件数を現状以下（16 件）に抑制する。

- ・2024 年度における漁業活動に起因する危険事例は 0 件であった。
- ・過去の発生状況については表 6 に示した。

表 6. 2017 年度から 2024 年度における漁業活動に関する危険事例の発生件数

	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
斜里町	2	0	1	5	0	0	0	0
羅臼町	1	3	0	0	0	0	7	0
標津町	0	0	0	0	0	0	0	0
計	3	3	1	5	0	0	7	0

その他 ヒグマの問題行動に起因する危険事例

- ・2024 年度はヒグマの問題行動に起因する危険事例が計 17 件発生した(表 7、図 14)。
- ・過去の発生状況については図 15 に示した。

表 7. ヒグマの問題行動に起因する危険事例の詳細 (抜粋)

No.	日付・場所	状況概要
1	4 月 15 日 羅臼町	アパートの真裏に出没し、フレコンパックを破いて中のゴミを物色した。フレコンパックの中には人為食物等の誘引物はなかった。
2	4 月 19 日 斜里町	高架木道の利用者に対してブラフチャージと唸り声を上げた。20 分ほど現地に滞留した。
3	5 月 31 日 斜里町	自然センターから五湖へ向かっている際、ヘアピンカーブ手前付近にてオス成獣 1 頭を目撃した。対向車線で停車していたバスに対しブラフチャージをしたり立ち上がったたりしていた。
4	6 月 6 日 斜里町	農作業中、気付いたら背後にクマが出没したため、農作業を中断して慌てて逃げたとのこと。ヒグマは出没を継続した。
5	6 月 11 日 斜里町	フレペの滝遊歩道でヒグマと距離 20m で遭遇。声や手を振って人の存在をアピールしたにも関わらず、距離 10m まで接近してきた。
6	7 月 3 日 斜里町	養鹿場の柵内にヒグマが侵入し、エゾシカを捕食する事案が発生した。
7	7 月 4 日 斜里町	養鹿場の柵内にヒグマが再進入した。
8	7 月 10 日 斜里町	道道 93 号知床自然センター付近を通過した車両がヒグマに威嚇突進を受けた。
9	7 月 11 日 斜里町	高架木道取り付け付近でオス成獣が滞留し、利用者に計 3 回の威嚇突進を行った。現地調査の結果、ヒグマはミズバショウを採食していただけであった。
10	7 月 16 日 斜里町	7 月 11 日以降も追い払いを行ったにもかかわらず、五湖園地に滞留し、人に対して威嚇突進を繰り返したため、有害捕獲となった。
11	7 月 23 日 斜里町	知床自然センターの駐車場にヒグマが出没した。追い払いをしたものの、対策員への接近を何度も繰り返した。
12	7 月 29 日 斜里町	知床横断道路にヒグマが出没し、道路横断して見えなくなったところを利用者が車で通過しようとしたところ、後ろに飛び出してきて数 m 追いかけて来た
13	8 月 4 日 斜里町	知床五湖で利用者がヒグマと距離 5m で遭遇。利用者が走って逃げたところ追いかけてきた。ヒグマは遭遇位置から L～M 間、しかしヒグマは P 地点まで追いかけてきた。
14	9 月 18 日 斜里町	知床五湖で利用者がヒグマと距離 20m で遭遇。ヒグマは利用者に気づくと、遊歩道上を利用者に向かって移動した。利用者が大声をだすと立ち止まり、こちらをじっと見てゆっくりと遊歩道外へ移動した。

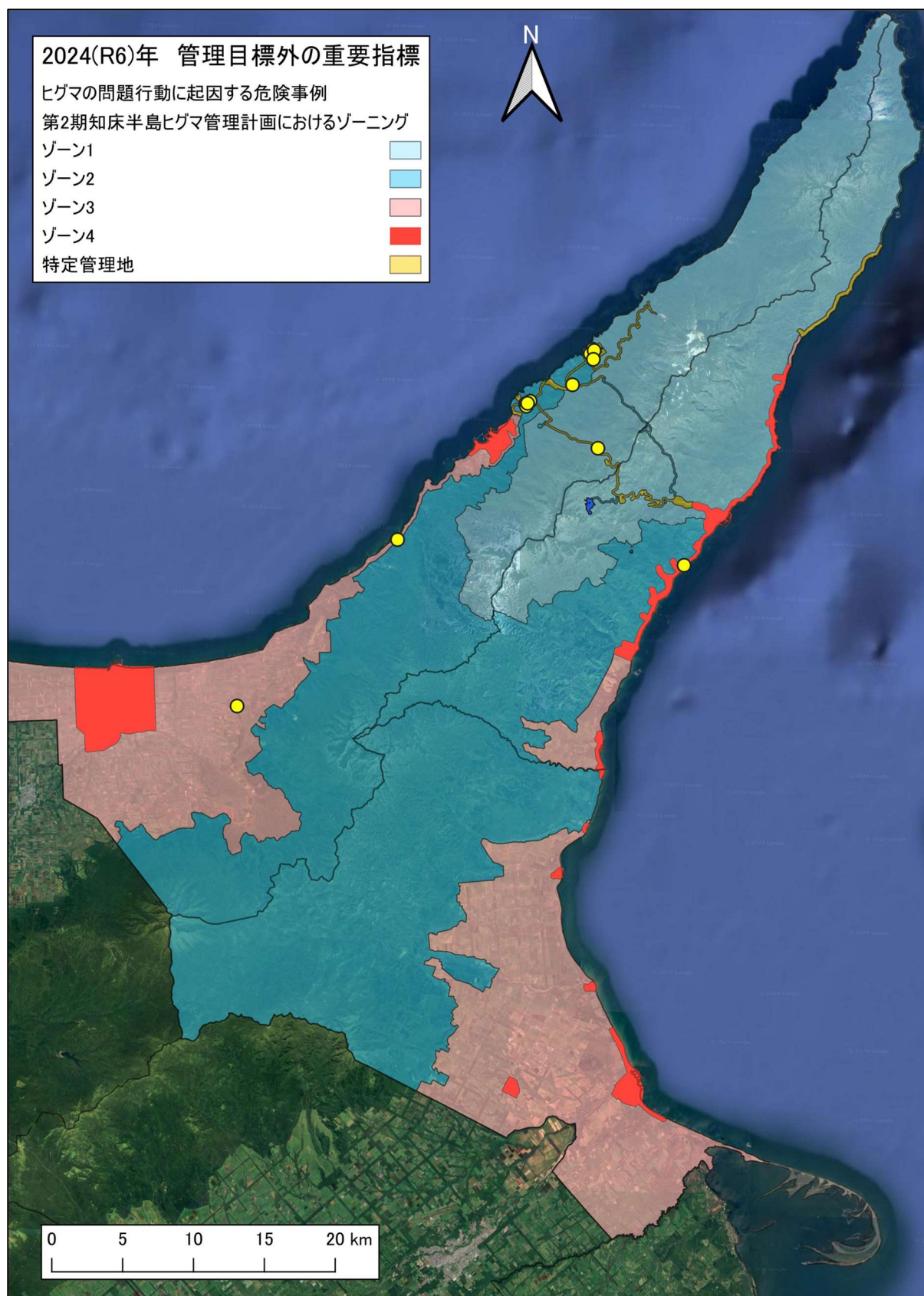


図 14. ヒグマの問題行動に起因する危険事例の発生位置

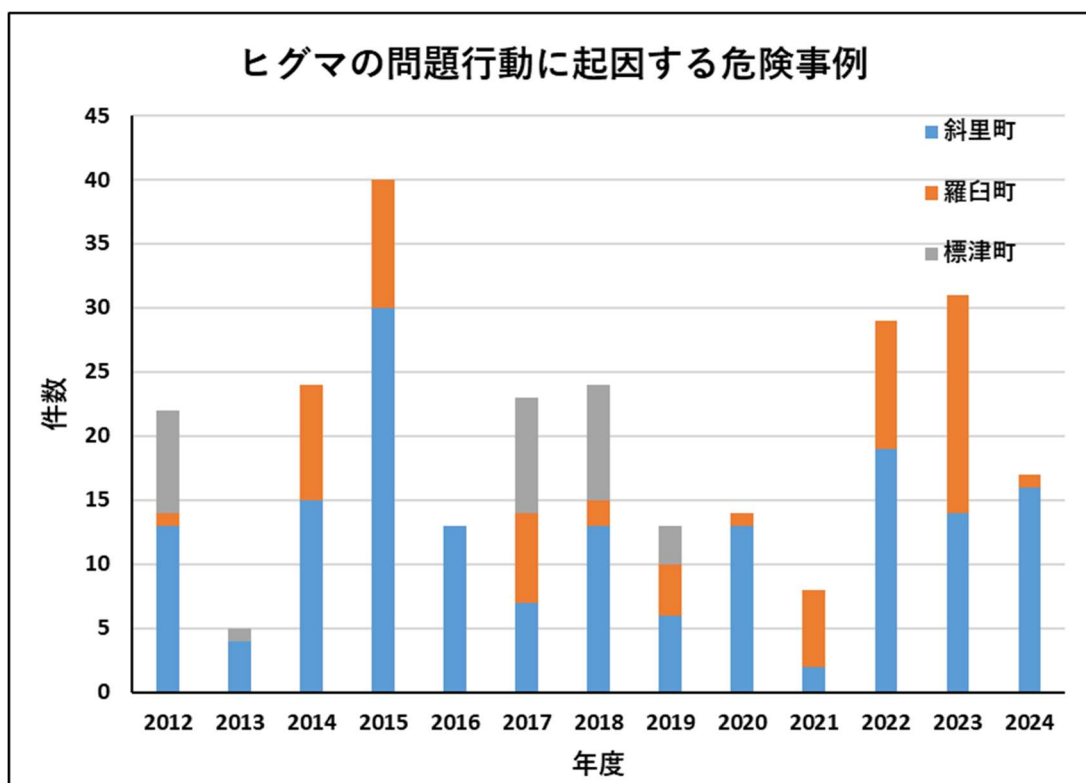


図 15. ヒグマの問題行動に起因する危険事例の発生件数 (2012-2024 年度)

＜参考＞第 1 期知床半島ヒグマ管理計画 目標の達成状況（5 年間）

○第 1 期知床半島ヒグマ管理計画の目標の達成状況

本計画の目標	目標値	結果						目標達成状況	主な対策 ※方策No. の後の「○△×」等については各方策の実施状況を知床ヒグマ対策連絡会議で評価したもの
		2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)		
①計画期間内における、斜里町、羅臼町及び標津町内でのメスヒグマの人為的な死亡総数の目安を75頭以下とする。（注 4）	75頭	10頭	21頭	15頭	14頭	3頭	11頭	達成	【平時】 誘引物の除去、侵入防止柵・電気柵の整備、居住地周辺の草刈り 【方策2(○), 6(○), 32(○/△/○), 35(○/△), 37(△/△/○)】 【出没時】 威嚇追い払い 【方策7(△)】
	(累計)		21頭 (28%)	36頭 (48%)	50頭 (67%)	53頭 (71%)	64頭 (85%)		
②計画期間内における、ヒグマによる人身事故をゼロとする。	0件	0件	1件 (注8)	0件	1件 (注8)	0件	0件	未達成	【平時】 侵入防止柵・電気柵の整備、居住地周辺の草刈り 【方策2(○), 6(○), 32(○/△/○), 35(○/△), 37(△/△/○)】 【出没時】 出没情報の提供、問題個体の捕獲 【方策1(○), 8(△)】
	(累計)			1件	2件	2件	2件		
③利用者の問題行動に起因する危険事例の発生件数を半減させる。	12件	13件	4件	10件	17件	16件	49件	未達成	【平時】 利用者への普及啓発 【方策9(△), 10(○), 14(○), 23(○), 24(△), S19(△)】 【出没時】 ー
	(累計)			14件	31件	47件	96件		
④地域住民や事業者の問題行動に起因する危険事例の発生件数を半減させる。	10件	1件	10件	13件	9件	5件	20件	未達成	【平時】 地域住民への普及啓発（情報交換会、学校での普及啓発等） 【方策2(○), 6(○), 32(○/△/○), 35(○/△), 37(△/△/○)】 【出没時】 ー
	(累計)			23件	32件	37件	57件		
⑤市街地（ゾーン 4）への出没件数を半減させる。	210件	60件	96件	84件	136件	38件	121件	未達成	【平時】 侵入防止柵・電気柵の整備、居住地周辺の草刈り、誘引物の除去 【方策2(○), 6(○), 32(○/△/○), 35(○/△), 37(△/△/○)】 【出没時】 威嚇追い払い、問題個体の捕獲 【方策7(△), 8(△)】
	(累計)			180件	316件	354件	475件		
⑥斜里町における農業被害額及び被害面積を 3 割削減する。（注 5、6）	4, 652千円 523 a (5 年平均)	5, 524千円 609 a	8, 727千円 852a	5, 180千円 557 a	6, 127千円 561a	3, 533千円 347a	4, 641千円 365a (5, 642千円、 536a)	未達成	【平時】 電気柵の整備、農業者向け普及啓発 【方策6(○), 32(○/△/○)】 【出没時】 問題個体の捕獲 【方策8(△)】
⑦漁業活動（特に羅臼側の昆布番屋等）に係する危険事例の発生件数を半減させる。	2件	0件	3件	4件	1件	5件	0件	未達成	【平時】 漁業者向け普及啓発 【方策32(○/△/○)】 【出没時】 威嚇追い払い、問題個体の捕獲 【方策7(△), 8(△)】
	(累計)			7件	8件	13件	13件		
⑧ヒグマによる人身事故を引き起こさないための知識、ヒグマに負の影響を与えずにふるまうための知識を地域住民や公園利用者に現状以上に浸透させる。	-	-	-	-	-	-	-	-	【平時】 普及啓発 【方策9(△), 12○, 14(○), 23(○), 32(○/△/○), S19(△)】 【出没時】 ー

（注 4）当該地域におけるヒグマの個体数に係る新たな知見が示されるなど状況に変化があった際には、その結果を踏まえ科学的な見地から人為的な死亡総数の目安について再考する。
（注 5）本目標は、斜里町鳥獣被害防止計画（H27-29）より引用したもの。なおH30-R2以降の防止計画では目標を3割から1割減に下方修正している。
（注 6）標津町や羅臼町においてもデントコーンや牧草ロール等に農業被害が発生しているが、被害の発生頻度や被害額は斜里町と比較して少なく、被害として計上する状況には至っていない。
したがって、目標には掲げずに被害状況を注視することとする。
（注 7）③～⑧において基準とする年度及びそれらの達成状況を測るための年度については、それぞれの値の変動状況等を踏まえつつ、適切な設定を行う。
（注 8）ハンターによる人身事故。
（注 9）令和3年度の農業被害額及び被害面積は、令和4年3月上旬頃に集計結果が出る予定。

(別紙 1)
240730 斜里町

2024年 7 月 30 日 斜里町豊倉におけるヒグマによる人身事故発生の経緯

2024 年 7 月 30 日 14 : 47 頃、斜里町豊倉にて猟友会斜里分会所属の A 氏がヒグマの巻き狩り猟中にヒグマに襲われる事例が発生。以久科地区の農地にて農業被害が発生しているため、痕跡を辿った結果、該当のヒグマが豊倉地区の防風林内に潜んでいる可能性が高く、猟友会員等 11 名によるヒグマ有害捕獲を目的とした巻き狩り猟を実施した。

その際、「待ち」の配置についていた A 氏の前にヒグマが現れたため発砲したが、ヒグマに突進され覆いかぶさられる状況となった。その際に A 氏は、額に 10 針、左手の指に 2 針縫う傷（その他擦過傷あり）を負った。その直後、ヒグマが A 氏から離れた際に別の「待ち」が発砲し、同個体を捕殺した。

事後直ちに、A 氏は猟友会員に付き添われ病院へ向かい治療を受け、その後帰宅した。

事故発生日時：2024 年 7 月 30 日 14 : 47 頃

場所：斜里町豊倉

被害者：A 氏（北海道猟友会斜里支部斜里分会）

加害個体：ヒグマ オス成獣（体重：267kg、体長：176cm、ID:24B16 オ 696）



図 1. 斜里町豊倉地区で発生したヒグマによる人身事故地点

(別紙 2)

人為的死亡個体の総数内訳表（行動段階含む）

<人為的死亡数（有害捕獲・狩猟・その他）>

知床半島ヒグマ保護管理方針（2012～2016 年） 累計 188 頭

- ・ 2012 年 計 68 頭（斜里町 22 頭、羅臼町 46 頭）
- ・ 2013 年 計 14 頭（斜里町 12 頭、羅臼町 2 頭）
- ・ 2014 年 計 19 頭（斜里町 13 頭、羅臼町 6 頭）
- ・ 2015 年 計 68 頭（斜里町 49 頭、羅臼町 19 頭）
- ・ 2016 年 計 19 頭（斜里町 17 頭、羅臼町 2 頭）

知床半島ヒグマ管理計画（2017～2021 年） 累計 177 頭

- ・ 2017 年 計 48 頭（斜里町 26 頭、羅臼町 11 頭、標津町 11 頭）
- ・ 2018 年 計 31 頭（斜里町 13 頭、羅臼町 14 頭、標津町 4 頭）
- ・ 2019 年 計 47 頭（斜里町 29 頭、羅臼町 13 頭、標津町 5 頭）
- ・ 2020 年 計 14 頭（斜里町 6 頭、羅臼町 5 頭、標津町 3 頭）
- ・ 2021 年 計 37 頭（斜里町 19 頭、羅臼町 14 頭、標津町 4 頭）

第 2 期知床半島ヒグマ管理計画（2022～2027 年） 累計 260 頭

- ・ 2022 年 計 45 頭（斜里町 18 頭、羅臼町 18 頭、標津町 9 頭）
- ・ 2023 年 計 185 頭（斜里町 97 頭、羅臼町 72 頭、標津町 16 頭）
- ・ 2024 年 計 31 頭（斜里町 18 頭、羅臼町 4 頭、標津町 9 頭）

※1～12 月に捕獲された個体をその年の捕獲として集計。

<行動段階の区分方法>

- ✓ 知床半島ヒグマ保護管理方針および知床半島ヒグマ管理計画で集計の対象となった、2012～2023 年の人為的死亡個体について、捕獲時の状況から行動段階を区分。
- ✓ 2012～2016 年は知床半島ヒグマ保護管理方針、2017～2021 年は知床半島ヒグマ管理計画、2022～2023 年は第 2 期知床半島ヒグマ管理計画に記載された行動段階に基づいて行動段階を区分。
- ✓ 行動段階の判定は、捕獲時の判断を優先し、時間が経過してから判明する DNA 分析結果や胃内容分析等の結果は考慮していない。
- ✓ 行動段階 2 は、農作物を食害して捕獲された個体「段階 2（農）」とゴミや人の食料といった農作物以外を食害して捕獲された個体「段階 2（非農）」に区分して集計。
- ✓ 狩猟による捕獲や箱わなによる捕獲については、「判定なし」に区分。

ヒグマの行動段階区分

- ・ 段階 0：人を避ける。人との出会いを積極的に回避し、出会った場合にも逃走していくような個体。
- ・ 段階 1：人を避けない。人に会っても慌てて逃走するような行動はみられないが、人為的食物を食べてはいない。

(段階 1 + : 段階 1 ではあるが行動改善が見られない個体。人間の所有物に実害を与えているとまで言えないが、強い興味を示す行動等が見られる個体。)

- ・段階 2 : 人の活動に実害をもたらす。人為的食物を食べた個体、あるいは、農作物や漁獲物、人家等人間の所有物に直接被害を与えた個体。
- ・段階 3 : 人につきまとう、または人を攻撃する。

＊「段階 1 +」の区分は、知床半島ヒグマ管理計画でのみ存在。

<ゾーン区分>

知床半島ヒグマ保護管理方針 (2012～2016 年)

- ・ゾーン 1 : 全域が遺産地域で定住者は存在しない。季節的に漁業者が生活する番屋がわずかに存在する。自己責任が基本の登山、トレッキング、カヤッキングなどの利用者が季節的に少数訪れる。
- ・ゾーン 2 : 定住者がわずかに存在するか、少数の番屋がある遺産地域。もしくは、自己責任が基本の登山、トレッキング、カヤッキングなどの利用者や、自然ガイドによるツアーなどの参加者が一定程度訪れる遺産地域。定住者は存在しないが、事業所がわずかに存在する隣接地域の山林・山岳地域。低標高の山林の一部では森林施業等が行われている。登山、山菜・キノコ採り、などの利用者や狩猟者が季節的に少数訪れる。
- ・ゾーン 3 : 定住者が少数存在するか、番屋が比較的多い遺産地域。もしくは、一般観光客も含む利用者の往来が比較的多く、利用拠点が存在する遺産地域。利用者が一定程度訪れる隣接地域。
- ・ゾーン 4 : 定住者が少数存在するか、小規模な集落が存在する隣接地域。農業や漁業などの経済活動が行われている。
- ・ゾーン 5 : 隣接地域の市街地とその周辺。

知床半島ヒグマ管理計画 (2017 年～)

- ・ゾーン 1 : 全域が遺産地域で定住者は存在しない。季節的に漁業者が生活する番屋がわずかに存在する。自己責任での利用が基本となる登山、トレッキング、カヤッキング等の利用者が季節的に少数訪れる。
- ・ゾーン 2 : 定住者が少数存在するか、少数の漁業番屋がある遺産地域。もしくは、自己責任での利用が基本となる登山、トレッキング、カヤッキング等の利用者や、自然ガイドによるツアー等の参加者が一定程度訪れる遺産地域。定住者は存在しないが、事業所がわずかに存在する隣接地域の山林・山岳地域。低標高の山林の一部では森林施業等が行われている。登山、山菜・キノコ採り等の利用者や狩猟者が季節的に少数訪れる。
- ・ゾーン 3 : 定住者が少数存在するか、小規模な集落が存在する隣接地域。農業や漁業等の経済活動が行われている。
- ・ゾーン 4 : 隣接地域の市街地とその周辺。
- ・特定管理地 : 一般観光客も含む利用者の往来が比較的多く、利用拠点が存在する遺産地域。利用者が一定程度訪れる隣接地域で、ヒグマへの対応策が限定される地区。

<人為的死亡個体の行動段階（年別推移）>

人為的死亡個体における行動段階判定結果

- ✓ 「段階3」と区分された死亡個体は、3町で計2頭。
- ✓ 「段階2（非農）」に区分された死亡個体は、3町で計34頭。そのうち、羅臼町の19頭が全体の56%を占めた。
- ✓ 「段階2（農）」に区分された死亡個体は、斜里町で186頭。羅臼町、標津町では発生しなかった。
- ✓ 「段階1+」と区分された死亡個体は、3町で50頭。そのうち、斜里町の22頭が全体の44%を占めた。
- ✓ 「段階1」と区分された死亡個体は、3町で193頭。そのうち、羅臼町の159頭が全体の83%を占めた。
- ✓ 「段階0」と区分された死亡個体は、3町で計0頭。
- ✓ 「判定なし」と区分された死亡個体は、3町で計125頭。そのうち、斜里町の76頭が全体の61%を占めた。
- ✓ 斜里町では、「段階2（農）」が最も多く、死亡個体の59%を占めていた。
- ✓ 羅臼町では、「段階1」が最も多く、死亡個体の72%を占めていた。
- ✓ 標津町では、「判定なし」が最も多く、死亡個体の55%を占めていた。

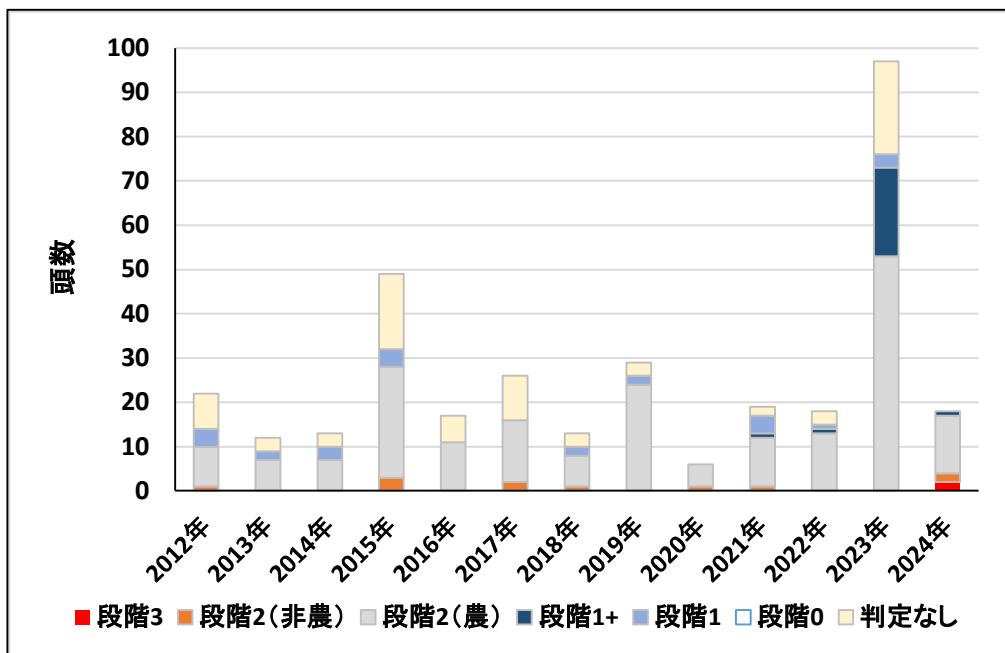


図1. 斜里町における人為的死亡個体の行動段階

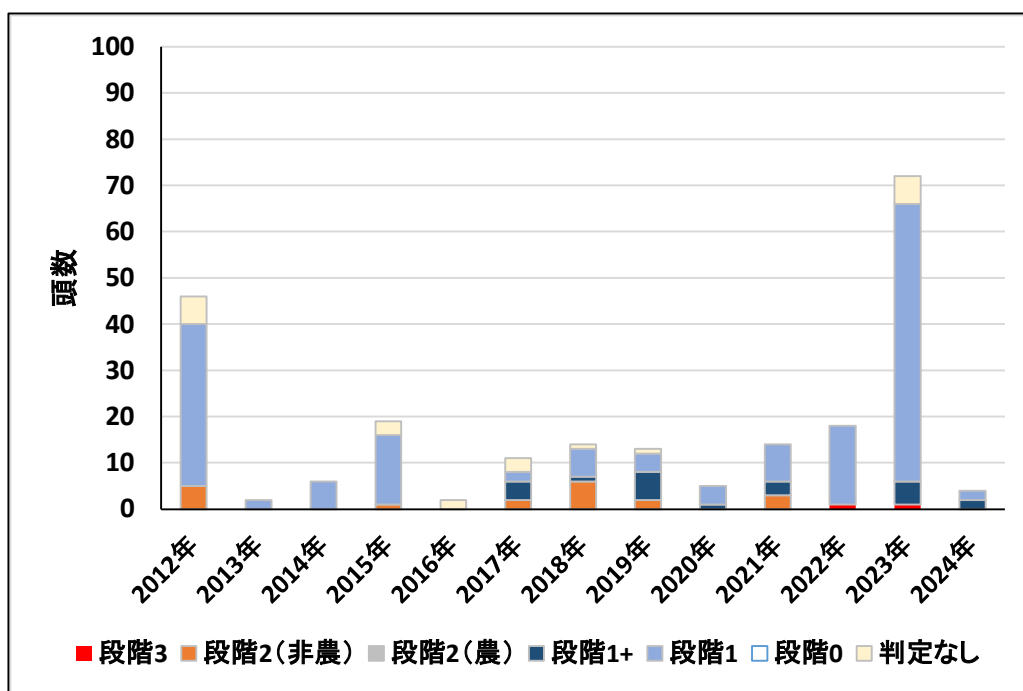


図 2. 羅臼町における人為的死亡個体の行動段階

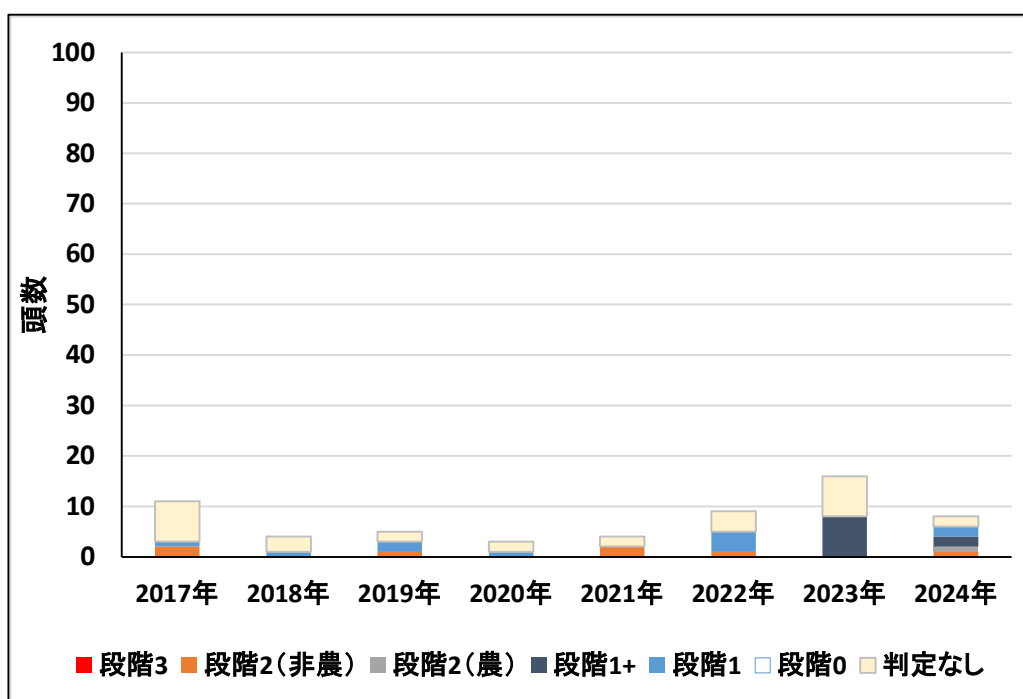


図 3. 標津町における人為的死亡個体の行動段階

※管理計画の正式な対象地域となった 2017 年から集計

表 2. 斜里町および羅臼町における人為的死亡個体（狩猟・有害捕獲・その他）の死亡直前の行動段階（2012 年～2016 年）

* 青字はオス、赤字はメスを示す。

* ゾーン・行動段階は、知床半島ヒグマ保護管理方針に基づく。

2016年				ゾーン区分(斜里町)					ゾーン区分(羅臼町)					
行動段階		斜里町	羅臼町	計	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
3	人身被害	0	0	0										
2	非農作物(生ゴミ・干し魚等)	0	0	0										
2	農作物加害	11	0	11		5	6							
1	人なれ	0	0	0										
0	警戒心強い	0	0	0										
判定なし	わな錯誤捕獲など	6	2	8				2	4	1	1			
計		17	2	19	0	11	0	6	0	1	1	0	0	0

2015年				ゾーン区分(斜里町)					ゾーン区分(羅臼町)					
行動段階		斜里町	羅臼町	計	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
3	人身被害	0	0	0										
2	非農作物(生ゴミ・干し魚等)	3	1	4				1	2	1				
2	農作物加害	25	0	25		14		11						
1	人なれ	4	15	19	1	3				11	1		1	
0	警戒心強い	0	0	0										
判定なし	わな錯誤捕獲など	17	3	20		3	7	2	4	2	1			
計		49	19	68	1	27	0	20	1	16	1	1	1	0

2014年				ゾーン区分(斜里町)					ゾーン区分(羅臼町)					
行動段階		斜里町	羅臼町	計	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
3	人身被害	0	0	0										
2	非農作物(生ゴミ・干し魚等)	0	0	0										
2	農作物加害	7	0	7										
1	人なれ	3	6	9	1	1	1			5	1			
0	警戒心強い	0	0	0										
判定なし	わな錯誤捕獲など	3	0	3				2	1					
計		13	6	19	2	8	0	3	0	5	1	0	0	0

2013年				ゾーン区分(斜里町)					ゾーン区分(羅臼町)					
行動段階		斜里町	羅臼町	計	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
3	人身被害	0	0	0										
2	非農作物（生ゴミ・干し魚等）	0	0	0										
2	農作物加害	7	0	7										
1	人なれ	2	2	4	1			1		1		1		
0	警戒心強い	0	0	0										
判定不能	わな錯誤捕獲など	3	0	3										
計		12	2	14	1	8	0	3	0	1	0	1	0	0

2012年				ゾーン区分(斜里町)					ゾーン区分(羅臼町)					
行動段階		斜里町	羅臼町	計	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
3	人につきまとう・人身被害	0	0	0										
2	非農作物(生ゴミ・干し魚等)	1	5	6			1			3	1	1		
2	農作物加害	9	0	9		6		3						
1	人なれ	4	35	39	3	1				11	16	1	1	
0	警戒心強い	0	0	0								2	4	
判定なし	わな錯誤捕獲など	8	6	14		1	4	2	1	3	2	1		
計		22	46	68	4	11	1	5	1	36	3	7	0	0